

# 「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

R-PDCA サイクルを通して、主体的に学習に取り組み、

生活を改善しようとする力の育成

下郷町立下郷中学校

ほとんどの生徒が自主学習などの決められた学習に取り組むことができる。しかし、自分の将来の目標に向け、主体的に取り組もうとする生徒は少ない。家庭学習について、自ら計画的に取り組むことができる生徒の育成を図っている。

## 取組のねらい

### 主体的に家庭学習に取り組む生徒を育てたい。

家庭学習は家庭で行うものという固定観念があり、学校側は家庭学習を忘れずに行い、提出するという流れに力をおいて取り組んできた。しかし、家庭学習は学校教育の一環として指導するものであり、家庭に対して積極的に支援を求める体制作りが重要である。そのために、規則正しい生活・健康な生活習慣を基盤とし、宿題と自主学習を主体的に行うことができる資質・能力の育成が重要になってくる。

「家庭学習スタンダード」にも明記されているとおり、自己マネジメント力を育てていかなければならない。しかし、自己マネジメント力は自ら気付き、工夫・改善しようとする意識の高まりの中で育まれるものとする。

本校では、主体的に家庭学習に取り組む生徒の育成のため、「家庭学習スタンダード」をもとに取り組んでいくことにした。

## 取組の内容

### 学習の手引きを作成し、同一歩調で取り組む。

教師側が同一歩調で進めることができるよう、学年保護者会や学年集会、授業等で活用できるような「学習の手引き」を作成した。毎日の学習については、予習・授業・復習についてまとめ、定期テスト等の学習については、テスト前・テスト後の学習についてまとめ、長期休業や日常生活の中での取組方法についてもまとめた。オリエンテーションや学級活動の時間を使って説明するなど、共通理解のもと実践した。



【全校集会での説明】

人は何かを学んだとき、

- 20分後には、58%の内容しか記憶に残っていない(42%忘れる)
- 1時間後には、44%の内容しか記憶に残っていない(56%忘れる)
- 9時間後には、36%の内容しか記憶に残っていない(64%忘れる)
- 1日後には、33%の内容しか記憶に残っていない(67%忘れる)
- 2日後には、28%の内容しか記憶に残っていない(72%忘れる)
- 6日後には、25%の内容しか記憶に残っていない(75%忘れる)
- 1ヵ月後には、21%の内容しか記憶に残っていない(79%忘れる)

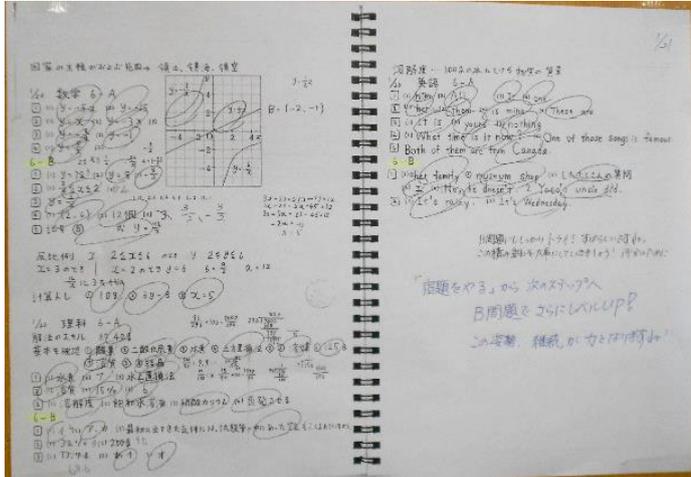
ということが分かっています。

【学習の手引きより 一部抜粋】

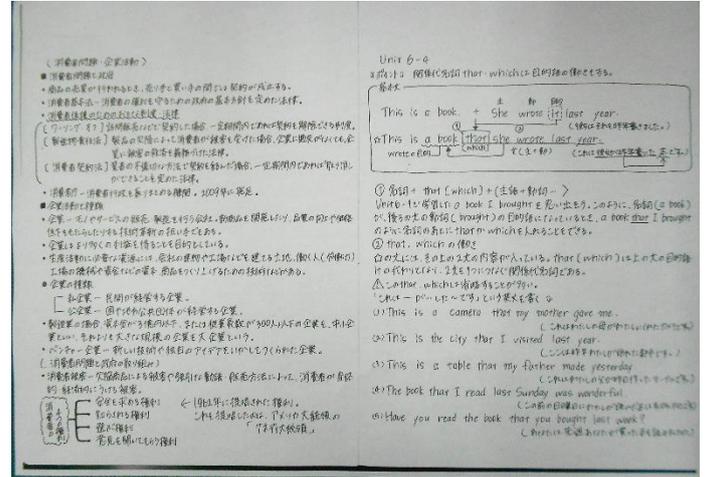
## 自主学習のよい取組を掲示する。

各学年とも、自主学習の方法について具体的な学習内容や実践方法が分からない生徒が見られた。そこで、学級担任が教室により自主学習ノートの取組をコピーして掲示した。

さらに、学年通信に掲載するなどして、保護者にも周知した。学芸委員会が主体となって、自主学習の見本を作成し、全校生徒に周知した。



【自主学習の教室掲示の例】

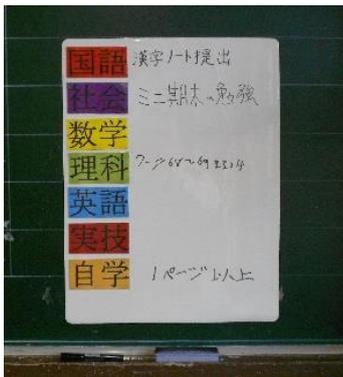


【学芸委員会が作成した自主学習の例】

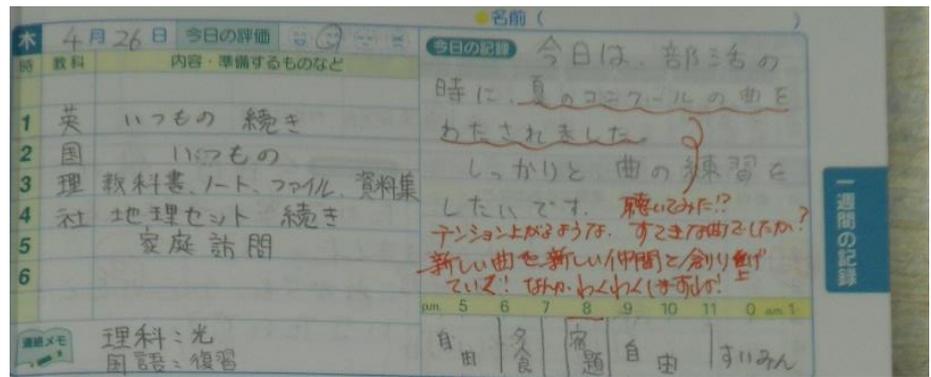
## 宿題の可視化により、家庭学習の時間を調整する時間を確保する。

昨年度までは、どの教科の宿題がどの程度の量で出されているのか、教師側が把握できていなかった。今年度は、教室後方の黒板に宿題の内容や提出期日を記入するホワイトボードを設置した。また、担任も、宿題の量などを調整しながら自主学習ノートの取組についてアドバイスをを行うことができた。

帰りの学活の時間では、生活ノートに宿題をしっかりと記入させ、家庭学習をどのような時間配分で行うかを考える時間を確保した。さらに、自主学習で取り組む内容についても、宿題の量を考えながら自らが決定できるように担任が支援することにより、自己マネジメント力の育成を図ることができた。



【ホワイトボード】



【家庭学習の予定】

# 実践して見えてきたこと

## 家庭学習と授業をつなぐ課題の提示の工夫

今年度は自分で自主学習の内容を考え、実行するというサイクルで進めてきた。自主学習に取り組む姿勢は改善されたものの、家庭学習と授業をつなぐような課題に取り組むことができたかという点においては疑問が残った。家庭学習の精選はもちろん、課題の選定が必要である。

つまり、「授業スタンダード」にも明記してある新たな学びにつながるような発展的な課題、また既習事項の振り返りにつながるような課題等を通して、学びたい意欲を喚起していかなければならない。

## 生徒・保護者・地域への周知のさらなる工夫

生徒に対しては、「学習の手引き」を活用し、4月の全校集会で「学びのスタンダード」推進教師が自主学習の取組について説明した。また、保護者に対しては、校長が「家庭学習スタンダード」について説明を行った。

自己マネジメント力を育てるために、定期テストを中心に、家庭での生活リズムを考える時間を確保したが、計画を立てるだけで、振り返りの時間までは確保することができなかった。よって、保護者の協力を得るためのチェック欄を設けるなど、定期テストの計画表を再考する必要がある。

また、生徒が取り組んでいる家庭学習や生活ノートに保護者が目を通し、保護者がコメントを書くような取組も考えられる。

さらに、小学校で作成している学習の手引きを参考にし、中学校でも同じような用語を用いるなど、小学校と中学校の統一も必要となってくる。

## 各種コンクールの活用を通したR－P D C A サイクルの構築

計算力コンテストや語彙力コンテストなどを実施しているが、計画を立てて実行させるものの、点数のみの振り返りで終わってしまった。計画に沿って学習し、コンテストに参加することはもちろん、振り返りの時間を確保し、次の計画を立てる時の参考にすることが必要である。

今までは定期テストの時のみ振り返りを行ってきたが、短い期間での振り返りの場面を設定することも大切である。